北京パラリンピックで鈴木　徹さんが 5 位入賞！

北京パラリンピック男子走り高跳び決勝が 9 月 14 日（日）に行われ、本校卒業生（17 期生）の鈴木　徹さんが 1 メートル 93 センチの記録で、見事 5 位に入賞いたしました。

みなさまからの温かい応援ありがとうございました。

鈴木さんは、これから 4 年後のロンドンパラリンピックを目指すとのこと。今後とも温かいご声援宜しくお願いいたします。

日新聞　2008年（平成20年）9月15日　月曜日

ロンドンでもっと高く

走り高跳び5位・鈴木選手

恩師、友人からもエール

1メートル93をクリアし、ガッツポーズの鈴木徹選手＝国家体育場（共同）

パラリンピックは三度目。開会式で日本選手団の旗手を務めた。義足のハイジャンパー、鈴木徹選手（26）＝山梨市＝が十四日、走り高跳び決勝で、初めてのメダルを狙った。五位だったが、「前回より勝負できた。歓声が気持ちよかった」と満足そうな表情。「まだ足りないものがあると分かった。（メダルに届かなかったのは）四年後を目指せというサインだと思う」。気持ちはロンドンに向いている。

ハンドボール選手として活躍した駿台甲府高時代の恩師や友人からは、健闘をたたえる声が上がった。

小中学校や障害者施設から講演に呼ばれる。子供たちに強調するのは「夢、目標を持とう。自分を好きになろう」ということだ。子供から「いじめに負けない」「障害のある人に親切にします」と言われたり、手紙をもらったりした。

「自分に人を変える力があるとも思えないが、励みになる」と鈴木選手。できる限り依頼は断らないようにしている。

障害者の大会だけではなく、一般の大会にも出場し、日本選手権出場を目標にしている。まだ勝負にならないが、「一般の選手と互角に渡り合うことができたら、僕にとって本当の『バリアフリー』だと思う」と話す。

中学、高校時代はハンドボールで活躍。スポーツ推薦で筑波大への進学が決まっていた高三の冬、自損事故で右脚をひざ下から切断した。数日間は落ち込んだが「自分にはハンドボールしかない」と立ち直った。病室でビデオを見て、復帰後をイメージした。

走り高跳びを始めたのは、リハビリ中だった二〇〇〇年春、誘われて背面跳びを試してみたら、当時の日本記録を上回ったのがきっかけだ。

期待されたシドニー、アテネのパラリンピックはいずれも六位。今大会は左ひざの故障から復帰したばかりだが「誰でも武器を一つ持っている。僕の武器は高く跳ぶこと」と信じて跳んだ。

駿台甲府高時代の監督だった八田政久教諭は「よく頑張った。メダル獲得の思いはあったろうが、胸を張って帰ってきてほしい」と三大会連続での入賞をたたえた。同校ハンドボール部のOB会では義足でプレーするという鈴木選手。八田さんは「今後は現役選手として活動するとともに、ハンドボールや陸上での指導者としての道も考えてほしい」とエールを送った。

高校の同級生で、沖縄のプロハンドボールチーム「琉球コラソン」に所属する水野裕矢さん（26）＝甲州市出身＝は中・高時代、ハンドボールで鈴木選手と競い合った。ライバル関係。水野さんは「跳躍能力は当時から群を抜いていた。五位という結果は素晴らしいが、彼ならばもっと上に行けるとも思う。頑張れるだけ頑張ってほしい」。さらなる飛躍に期待を込めた。